

医療技術評価について

20年前にイギリスにおいてNICEが設立され、その後、各国が医療技術評価を利用して、償還や価格調整に取り組むようになった。医療技術評価は新規の医薬品や医療機器の償還や価格決定の材料となる。医療技術評価は新規の医薬品や医療機器などの費用対効果を、既存の医薬品や医療機器の費用対効果と比較する。効果に関してはEQ-5D-5Lを用いてquality of lifeを数値化し、quality-adjusted life years (QALY)を用いることが多い。既存の費用対効果比と新規の費用対効果比の差である増分費用対効果比を評価する。増分費用対効果比(ICER)は、小さいほど良いとされている。

医療技術評価は、各国で基準や使用目的が異なる。イギリスでは20000-30000ポンド/QALY、アメリカでは50000ドル/QALY、日本では500-600万円/QALYが基準となる。しかし、終末期などの効能によっては基準を上回った場合でも許容されることがある。また医療技術評価だけで決まるわけではなく、倫理的、社会的考慮も含めた総合評価や、別の予算で一時的に償還され、再度評価されることもある。日本では主に価格調整を目的に使用される。薬価改定時に用いられる。

ICERをアウトカムとする研究は今後増加する可能性がある。しかし、既存のデータベースではいくつかの問題がある。問題点を提示し、今後の研究課題とする。